

公民館だより



令和 7年 8月
発行：富県公民館

富県公民館 活動の様子

梅雨が明け、いよいよ夏本番ですね。暑い日が続くので、熱中症には十分気を付け水分補給をこまめに行い、夏を楽しみましょう。

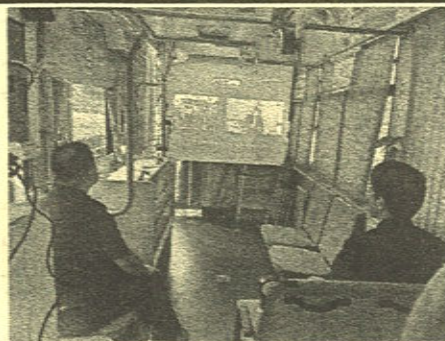
「ふれあいスポーツ」



五月下旬から始まったふれあいスポーツが七月八日終了しました。全十回、富県小学校と新山小学校の体育館で、多くの子ども達に参加してもらい、賑やかに楽しく行いました。夜七時からの講座にもかかわらず、大人の方、育成会の方にも参加いただきました。うれしかったです。モルツク、スラックライン、ホツケー、障害物競走、ドッジボール、バレーボール等、スポーツ推進委員の小牧 学さん、北原 憲治さんに指導いただき、大変お世話になりました。

「のどか学級・よろず講座」

七月九日(水)オンライン講演会が行われました。



市長は伊那公民館で講演を行い、その様子をオンラインで富県公民館で視聴しました。移住に関する内容では、新山集落センターに置いたモバイル公民館の中から「YamawaruCoffee」の入江さん、移住に関して詳しい竹村さんにお話をいただきました。

した。富県公民館からも意見質問が出され、有意義な時間でした。

「トムキャロット」

七月十八日(金)梅雨が明けた日、水遊びをしました。プールを朝から準備して、水温が上がるようにしました。まだ水は冷たいようでしたが、子供は夢中で遊んでいました。



興味のある方、いつでも富県公民館まで 電話：72-2318 FAX：74-1262

七月 兼題「新茶」

「我が家の 新茶を摘みつつ 母想い」

・感想から

家にあるお茶の新芽を摘みながら、母との思い出を懐かしんでいる様子。各家にお茶の木があり、摘んだことを思い出した。

○篠田先生より・体験が元となる句は、感動がある。叙情的な俳句となっている。

↓「我が家の 新茶摘みつつ 母想う」

「新茶持ち 夜汽車で向う 親元へ」

・感想から

親元に帰る嬉しさが伝わる。夜汽車の、のんびりとした様子と嬉しさが分かる。新茶はお土産だろうか。

○篠田先生より・夜汽車なので、作者の若いころの思い出だろう。親元に帰る嬉

しさと新茶の香りが感じられます。俳句は五感を大切に。

「ふくいくと 新茶の香り 部屋の中」

・感想から

部屋中にお茶の香りが溢れているような感じがする。部屋中に香る新茶、何かホッとする気がする。

○篠田先生より・「ふくいく」安易に使えない表現だが、ここでは「何とも言え

ないよい香り」を感じられる。五感を大切にした句。

「友からの 新茶が届き 茶柱が」

・感想から

今のお茶は茶柱が立たないので、この句の嬉しさがなかなか味わえない。年に一回、友から頂いたお茶だろうか。嬉しさが分かる。

○篠田先生より・友達から届いたお茶、その嬉しい気持ちとお茶を入れたら茶柱

が経ったという嬉しさ、二重の喜びが伝わる。

「友からの 新茶便りに 思い馳せ」

・感想から

友達からもらった新茶が今年も届いたという嬉しさと、とも立ちは元気かなと思う気持ち分かる。

○篠田先生より・友達を思う気持ちと新茶の荷が届いたわくわくする感じを句に

したい。↓「友からの 荷物開けるや 新茶の香」

